

読ませる？読み取る？ 身近にある2次元コード

静脈を読み取る銀行ATMの「手のひら認証」や指紋を読むことでロックを解除するパソコンのセキュリティ管理、「suica」「PASMO」といったICタグと同じような仕組みのものなど、人が介在しないで認識をするシステムは生活のなかにどんどんと入り込んでいます。今回はより生活に近いところで使われている2次元コードに注目して解説します。

生活密着型の2次元コードには 2つのパターンが

日常に溶け込んでいる2次元コードは大きく2つに分類できます。2次元コードを「読み取る」のか「読み取らせる」のかが分かります。

割合から言うと街の中で使われている2次元コードは「読み取る」ものが圧倒的に多くなっています。雑誌や広告、企業のWEBサイトや駅貼りのポスターなど、さまざまな場所や印刷物に2次元コードが表示されています。必要に応じて携帯電話で2次元コードを読み取って情報を利用する。そんな使われ方はすっかり定着した感じがします。



2次元コード化した観光やイベント情報を掲載した携帯サイトのURLを載せている新宿区の地図。
<http://www.city.shinjuku.tokyo.jp/division/261100shoko/Syokou-HP/Kankou/mobile/index.html> この長さのURLがQRコードに変換されている。

普段、便利に使っている2次元コードですが、高校生などに聞くと携帯サイトへのアクセスのために作られたものだとか勘違いされたりします。確かに広告媒体などでは携帯サイトのURLを2次元コード(QRコード)化したものがほとんどで、このような勘違いをされても仕方がないという感じもするほどです。

2次元コードの特長の一つは大量の情報を小さなコードにすることにありますが、携帯サイトのURLの情報量は、さほど大きくありません。それでもURLを2次元コード化するのは、「http://www……」のような面倒なアルファベットの入力を省くこと、簡単かつ正確に読み取り、確実にWEBサイトに誘導することが目的なのです。

有料でしかもスペースに制限のある印刷物では十分なPRができないとき、いまいちばん多く使われるのは携帯電話やPCなどのWEBサイトです。情報量は多く、ビジュアル的にも優れ、音声や動画まで使えるWEBサイトは広告媒体としては実に有用なのです。

しかし、WEBサイトは印刷物と違って無意識に目に入るというものではありません。ユーザーが積極的に「見に行く」ことがなければ、どれだけ豊富な情報も伝わらないという弱点があります。そこで印刷物からスムーズに(しかも簡単に)WEBサイトに誘導するために2次元コードを利用するのです。



携帯電話画面QRコード読み取り対応
卓上型2次元コードリーダー TFIR-33N

大きな読み取り窓で携帯電話に表示されたQRコードをかざすだけで自動的に読み取る、装置組み込みに最適な2次元コードリーダー

2次元コードは 双方にメリットをもたらす

URLを2次元コードにするのは、現時点では最も効率の良い方法であることは間違いないかもしれませんが、2次元コードの強みの一つは情報容量の大きさにあるので、考えるとちょっともったいないような使い方であることは否めません。

では2次元コードを「読み取らせる」使い方はどうなのでしょう。今度はそちらを見ていきましょう。

「読み取らせる」使い方は、「読み取る」使い方のまるっきり逆のやりかたになります。

「読み取る」使い方が印刷物などに表示された2次元コードを携帯で読み取るやり方だったのに対して、「読み取らせる」使い方は携帯に表示した2次元コードを読み取り用の端末に読み取らせてサービスを受けるのです。

昨年後半から2次元コードリーダーが組み込まれたタッチパネル式のサービス端末が宅配業者の全国の営業所に置かれたり(最近ではテレビCMで盛んに流されています)、飛行機のチェックインや搭乗手続きでも携帯に表示した2次元コードが使われるなど、「読み取らせて」使うサービス

も徐々に広がりを見せています。

このような使われ方では、あらかじめ利用者は名前や住所、飛行機なら予約といった情報をインターネットを経由して登録しておき、登録された情報を引き出すための鍵(ID)として2次元コードが使われる形になります。

航空機の予約に絞って話をすすめましょう。

従来のやり方では電話や店頭の用紙を使って座席を予約し、担当者が手作業で入力していました。発券した後の搭乗手続きも基本的に目視の作業が多く、場合によっては間違い可能性があります。

現在進んでいるホームページでの予約／チェックインサービスでは、チケットの購入・予約などは各航空会社のホームページで事前に済ませ、予約完了後に送られてくる2次元コードや予約情報を携帯電話に保存することで、発券をしないまま飛行機に搭乗することができます(事前の予約情報と表示された2次元コードのIDを

照合しています)。

このようなサービスは顧客の手続きを減らしたり簡単にしたりという利便性を提供する一方で、航空会社にとってはリピータ性を確保することや利用する季節・人数・行き先といったデータの収集といったメリットももたらします。



●航空会社や宅配会社の端末には携帯電話に表示した2次元コード(QRコード)の読み取り装置が内蔵されていて、さまざまなサービスを提供しています。



●ご案内 ～ 海外での東研製品をご購入いただくために

海外で当社製品をご購入いただく場合、北米・ヨーロッパ・上海に展開する当社グループ会社をご利用下さい。
国内と変わらぬ製品ラインナップでお待ちしております。

【北米】Tohken USA Inc. (アメリカ/イリノイ州)

Tel. 847 233 9040 E-mail. info@tohkenusa.com

URL: <http://www.tohkenusa.com/>

【ヨーロッパ】Tohken Europe B.V. (オランダ)

Tel.+31 (0) 341 470 482 E-mail. info@tohken europe.com

URL: <http://www.tohken.eu/>

【中国】Tohken (Shanghai) Electronics Trading Co.,Ltd (上海)

Tel.+86 21 6241 4845 E-mail. info@tohken.com.cn

URL: <http://www.tohken.com.cn/>

- 詳しいご質問やその他の国での購入については、下記までお問い合わせ下さい。

海外営業課(担当佐藤)

TEL. 03-5325-4315 E-mail. info-oversea@tohken.co.jp

編集部より

今号より「東研ニュースレター“Flags”」は4年目に突入いたしました。

3年間無事に発行を続けてこられたのも、ひとえに毎月お読みいただいている皆様のおかげと感謝しております。

とはいえ、今年9月には医療用医薬品の新コードがスタートするなど、自動認識システムを巡る動きは活発になるばかりです。“Flags”もレイアウト変更などを加えつつ、これからも新しい情報や解説をお届けして参ります。

これからも「東研ニュースレター“Flags”」をよろしくお願いいたします。

次号予告

2008年6月号は...

『身近なところから手軽に改善！
小さなバーコードシステム』です。

Flags 6月号は6月9日発行です。

都合により内容が変更になる場合がありますので、予めご了承下さい。

TOHKEN

株式会社 東 研

<http://www.tohken.co.jp>

本社 営業部

東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル

Tel 03 (5325) 4311~3 Fax 03 (5325) 4318

名古屋営業所

Tel 052 (565) 9091 Fax 052 (565) 9094

大阪営業所

Tel 06 (6353) 5476 Fax 06 (6353) 6125

福岡営業所

Tel 092 (441) 3638 Fax 092 (441) 3639

日立営業所

Tel 029 (276) 9555 Fax 029 (276) 9556

Flags/フラッグス 2008年5月号 Vol.37 2008年5月9日発行

編集・発行 株式会社 東 研 〒163-0710 東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル
Tel 03 (5325) 4322 (編集事務局)

本誌に掲載の記事・写真・図版などは著作権法によって保護されており、無断で転用・転載・複製することはできません。